

岩船大豆情報 No.3

令和 8 年 7 月
村上農業普及指導センター

排水対策や、中耕・培土を徹底しましょう。



1 排水対策や中耕・培土、雑草防除の実施

(1) 排水対策

- 雨等によりほ場に水が停滞している場合は、排水路・ほ場内排水溝の点検・整備を行い、速やかに排水させましょう。
- 地表水が1日以内に排水されなかったほ場では、排水の確認を行い水をためないようにしましょう。また、周囲明渠が土塊でふさがれていないかなど、点検・整備しましょう。

(2) 中耕・培土と雑草防除

- 中耕・培土作業の遅れ等によりほ場で雑草が多くみられる場合は、晴れ間を見て除草剤での雑草対策を行いましょう。
- 培土作業は、開花期前（7月20日頃）までに終了させましょう。開花期以降の中耕・培土は、根の切断による生育へのダメージが大きく、生育抑制や落花・落莢を招く恐れがあります。
- 中耕・培土の晩限は、開花始めとしますが、生育量が小さいほ場では、生育量を確保するため、開花期（4～5割の株が開花始めに達した時期）までに中耕・培土を行いましょう。

2 干ばつ対策の実施

(1) 梅雨明け後の干ばつ対策

- 暗渠が設置されているほ場では、干ばつによる登熟不良を防ぐため、梅雨明け後は暗渠を閉めて土壤水分を維持しましょう。まとまった降雨により停滞水が生じた場合は、暗渠の開閉も活用しましょう。
- 可能な場合は、団地の代表的なほ場に縦穴を設置し、目視で地下水位を観察しましょう。地下水位が60～80 cm以下に下がる場合は、畦間かん水等を行いましょう。



縦穴施工の様子

地下水位目視縦穴

(2) 畝間かん水のポイント

- 実施時期：開花期以降の1ヶ月間（7月下旬～8月下旬）
- かん水の実施目安：下表の環境条件とほ場条件にすべて当てはまる場合

かん水が必要な環境条件	かん水できるほ場条件
①株の一番上の葉が、日中半分以上直立。 ②条間の土が白く乾いている。 ③上記①②の条件下でさらに晴天が3日以上続く見込み。	①周囲明渠等の排水対策がきちんと施工されている。 ②排水が良好であり、速やかに地表水が排除できる。

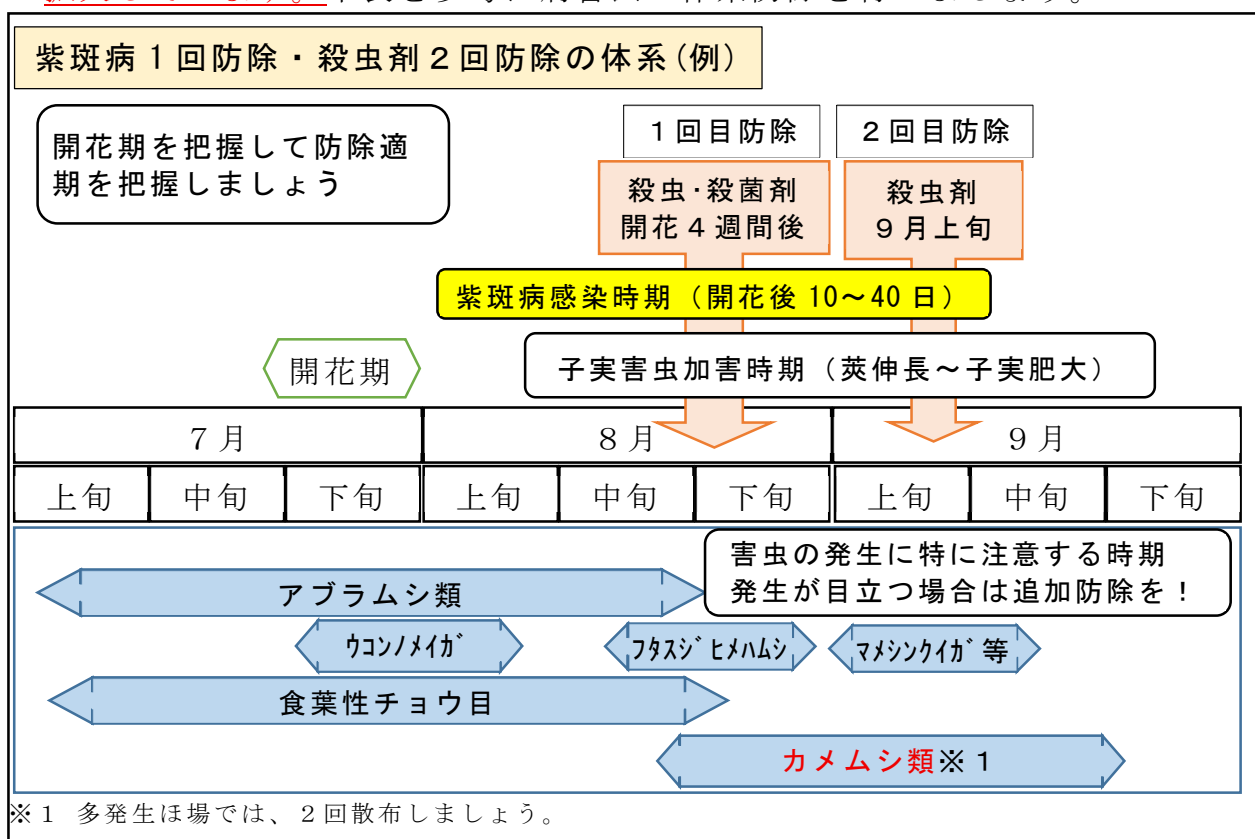
【方法及び注意点】

- 排水口・暗渠栓を閉じて、ほ場全体に水が行き渡るまでかん水を行い、ほ場全体に水が回ったら速やかに排水しましょう。
- かん水量は、地表かんがいでは水尻側の畝間まで水が行き渡る程度、地下かんがいでは畝間に水が染み渡る程度が目安です。
- 大区画ほ場では、長時間のかん水で水口側に停滞水が生じ、湿害を起こす場合があるので、数日に分けて徐々にかん水するようにしましょう。

3 病虫害防除

主要病虫害の体系防除

7月以降の主要な病虫害は、紫斑病、ウコンノメイガ、フタスジヒメハムシ、マメシクイガ及びカメムシ類です。特に近年ではカメムシ類の発生が拡大しています。下表を参考に病虫害の体系防除を行いましょう。



「里のほほえみ」で発生しやすい「葉焼病」に注意！

【発生生態】

- 種子伝染し、被害茎葉でも越冬します（前年発生したほ場で発生しやすい）。
- 初期は、葉に淡緑～紅褐色の小さな斑点が発現し、その後、次第に拡大して周囲が淡黄色の褐色～黒褐色の不整形の病斑となっていきます。
- 発生が激しいと、葉全体が焼けたようになって（写真）落葉するため、減収や小粒化を招きます。
- 連作ほ場で、前年多発・減収したほ場では、8 月上旬～中旬に薬剤防除を実施しましょう。

